



真剣な表情でレクを聞いていました。

子どもたちからの意見

- ・北斗市の自然をSNSなどで動画配信し、北斗市のいいところを拡散する。インターネットを使えば、お金も紙も必要ないと思う。
- ・北斗市の自慢を書き込んだお手製のポスターやチラシを、他のまちに配り、北斗市への来訪を呼びかける。
- ・北斗市産のモノを使って開発した商品を、ただ売るだけではなく、実際に作った人が色々な場所を訪れ、DJのような派手なパフォーマンスをしながら、誕生秘話やおいしさなどを伝える。
- ・駅や空港などで北斗市のおすめを動画でPRする。

### ① 情報発信

#### 北斗市を知ってもらうための工夫



市民協働のまちづくりを進めていくためには、多様な行政課題を市民のみなさんと共有し、地域の特性を活かした地域住民による主体的活動が大変重要です。

広報ほくとでは、次代を担う子どもたちが身近な社会問題や行政課題に関する理解を深め、「わたしたちにもできること」という視点で解決策を話し合い、考えていただいた内容を連載して、みなさんと一緒にまちづくりを考えていきたいと思ひます。

子どもたちからの意見

- ・北斗市のお米は冷めても美味しいので、地産地消としておにぎりを作り、駅などで販売したらどうだろうか。
- ・さっぽろ雪まつりみたいに、雪の滑り台をつくる。観光客が気軽に参加でき遊ぶことができるイベントを考える。(募集や事前申込だと飛び込みで参加できない)バスに乗って北斗市内を巡り、北海道ならではの季節を感じてもらう。

### ② 地域資源を活かした観光のアイデア

子どもたちからの意見

- ・SNSなどの有名な人(インフルエンサー)に北斗市を広めてもらう。
- ・東京など都市圏のお店を訪れて、北斗市の飲食店との連携を呼びかける。
- ・新函館北斗駅と沿線が繋がっている駅や施設に、自分たちで作成したポスターを貼ったり、かなでくるなどで開催したコンサートの音楽をCM風にアレンジして流したりする。

### あとがき

#### 誇らしいと思えるまちづくりをめざして

本市における観光施策の最大の課題は、体験観光の促進で、市では令和2年度から「着地型観光担い手づくり事業」を実施し、観光協会や複数の民間事業者とともに眠っている観光資源を活かす取り組みを進めているところです。

昨今、全国各地で観光を起爆剤とした「まち起こし」が行われており、差別化を図るためには、地域住民自らがまちの持つ「魅力」を掘り起こし、そこから派生する「特徴」や「らしさ」を磨き上げ、的確に発信していくことで持続性が生まれ、次の世代へ引き継がれていくのではないかと考えています。

今回、上磯小学校児童会のみなさんと観光を通じた北斗市のまちづくりを考えるにあたり、多くの意見が出されましたが、四季折々の美しい「自然」や一次産業を通じた新鮮な「食」は、北斗の魅力そのものであることを改めて思い知らされた次第で、これらの資源こそが我がまちの誇りです。

自分たちのまちを知ることは魅力の発掘に繋がり、その魅力は誇れるまちの源泉であり、誇れるまちこそが住み続けたいまちとなっていくのではないのでしょうか。

観光協会では、令和5年度から本格的に北斗の魅力凝縮した観光商品を提供する予定で、上磯小学校のみなさんのご意見のとおり、まずは多くのお客様にご来訪いただき、将来的には北斗に魅了されたリピーターやファンの皆さんが一年を通じて行き交う観光まちづくりを目指していきたいと考えています。(観光課長 新川 学)

話し合いを終えて、児童会のみなさんからは、「今回初めて自分のまちの魅力や自ら何ができるのかを考えるきっかけになった」との意見が多くありました。

〈巻末「まちと未来」〉には、観光をテーマにした協働プロジェクトに

・開発した商品をチャレンジ商品として観光客に食べてもらい、判定してもらう。

・自分たちがSNSを発信するだけではなく、北斗市に来た人が、勝手にSNS発信してもらええるような観光の仕掛けづくりをする(パネルを置くなど)。



付箋を活用して自分たちの意見をアウトプット。限られた時間の中で、たくさんの意見が出ました。

ついで教育大函館校のみなさんにインタビューした記事を掲載しています。

今回の上磯小学校児童会のみなさんには、自分たちのまちを知ってもらうことを念頭に、市役所の観光課長からのレクをうけ、北斗市ならではの「一人を魅了する観光戦略」について、まずは、北斗市の魅力やどんな人に来てほしいのかなどを話し合ってもらいました。

日常の居住地を離れて非日常圏を訪れることが主流だった観光の概念は、近年コロナ禍の影響を受けて変容し、自宅から1、2時間圏内の地元または近隣地域への宿泊観光や日帰り観光を指すマイクロツーリズムなどが増えています。それに伴い各地域では、新たな魅力を再発見する体験プログラムの開発や普段のツアー内容に新たな要素を加えるなど、遠方からの観光客だけではなく、地元や近隣住民の満足につながる高付加価値のサービスの提供することにより、域内の他の観光事業者や近隣住民との連携強化が図られています。

今回、上磯小学校児童会のみなさんには、自分たちのまちを知ってもらうことを念頭に、市役所の観光課長からのレクをうけ、北斗市ならではの「一人を魅了する観光戦略」について、まずは、北斗市の魅力やどんな人に来てほしいのかなどを話し合ってもらいました。

子どもたちからの意見

- ・北斗市のことを全く知らない人。↓初めて北斗市に来た時に「あれ？北斗市って想像とは違うぞ?！」と、びっくりして欲しい。
- ・九州など遠方の人。↓きれいな雪や、冬の空気の冷たさなど、九州との違いを体験してほしい。
- ・修学旅行生。↓食べ物のおいしさやきれいな景色を伝えて、将来大人になったら、また北斗市に来て欲しい。

どんな人に北斗市に来てほしいですか?それはどうしてですか?

小・中学生と考える「北斗市のまちづくり」

第2回 上磯小学校 児童会のみなさん

観光について考えてみよう!